

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号	(電話)0898-43-6662	
自己評価作成日	平成 22年	7月	31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 9月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で医療面・安全面での安心感がある。

○研修案内を積極的に行い、認知症ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

○寄り添うケアを心掛け、笑顔を多く引き出し、入居生活が居心地よいものになるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい生きがいがある心地よい今」という理念が実践され、利用者がいきいきと心豊かに過ごしている様子が感じ取れる。

母体が医療法人であるため、24時間の医療面でのバックアップがあり利用者や家族は安心できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセ

(ユニット名) もくれん

記入者(管理者)

氏名 別府 真由美

評価完了日 22年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日朝礼時唱和をしている。 グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、穏やかで家庭的な雰囲気ですらしていただけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を根底に置き、認知症介護の基本を的確にとらえ、ホーム独自で「その人らしい生きがいのある心地よい今」という理念を掲げ、日々の生活の中で実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の国分寺・綱敷天満宮等に初詣・地方祭（みこし来訪）等実施。 又、自治会に加入し、小学生の「見守り隊」として地域に貢献している。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入して地域の行事などの情報を得ながら、文化祭や夏祭りなどに参加したり、近所の保育園の子どもたちと七夕祭りを楽しむなど交流をしている。また、通学路の見守り隊として地域貢献し、子どもたちと顔見知りになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 自治会の会議時、運営委員会等でホームの取り組み・行時等報告することにより少しずつ理解されている。 保育所との交流、小中学生との体験学習交流（老健へ来た時に会話）等により理解されるよう活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回、運営推進会議を開催している。行事報告、研修報告、意見苦情報告等行い、意見交換も行っている。 地域の方を含めた防火訓練も行っている。	
			(外部評価) 2か月に1回定期的に開催し、行事、研修会、苦情やヒヤリハットの報告をしている。地域からは総代、地区代表、民生委員に参加を呼び掛けているが、多忙のため日程が合わない事もある。	地域内の様々な立場の方に参加を呼びかけ、今以上に多角的な意見交換ができるよう取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会でケアの実情を把握して、地域包括支援センターのケアマネジャーや担当職員と連携している。地域包括支援センターや居宅支援事業所ケアマネジャーに運営委員会に出席してもらい、日頃の取り組みを報告している。在宅支援の専門的立場から率直な意見をもらい、質の向上に努めている。	
			(外部評価) ケアマネジャーを窓口の実情や状況を伝え、課題解決の話し合いができる関係をつくっている。勉強会や研修会には常に参加しケアの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) グループホーム内だけではなく、法人全体で拘束をしないケアに努めており、Webを活用して情報の共有に努めている。利用者様の身体状況・日常生活を十分観察して拘束をしないケアを実施している。玄関の施錠は20時から6時30分とし、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう配慮している。	
			(外部評価) 拘束をしないケアは基本的なことである事を職員一人ひとりが認識している。どのような事が拘束に当たるのか共通認識を持つ事ができるように、日々の気づきを法人内のネットワークに掲載し、理事長や職員が毎日確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 物理的・精神的虐待・言葉による拘束も虐待の一部と認識し、職員同士注意を払っている。少しの変化も見過ごすことがないように、勉強会を行いユニット間の人員交代も実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、財産管理・運用に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。又、居宅介護支援事業所と支援センターとの連携を確保し支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャーと十分な話し合いを持ち、助言を受けながら重要事項説明書にて説明し入居の検討をして頂いている。又、利用者様やご家族の権利を尊重し、納得してもらえる介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時や電話にて日常の様子をお話し、意見・要望をお伺いしている。又、意見箱・アンケートを実施し職員全員に周知徹底しサービス改善に努めている。 運営推進会議にご家族にも出席頂いている。	
			(外部評価) 家族の要望を聞き出す事を意識して、来訪時には積極的に声かけをし、良い事だけでなく実情を報告している。来訪が少ない方には電話や手紙で様子を知らせている。年1回の無記名のアンケートの実施など意見や要望を出してもらえよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、グループホーム独自のミーティングに於いて意見交換を行っている。又、法人の運営委員会にて提案し、代表者にも意見が届き反映されている。  (外部評価) ミーティング時には気軽に提案や要望を言える雰囲気をつくっている。職員は日頃から主任に気軽に相談でき、意見は主任から法人本部に伝えられ、提案した事はできる事から改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に出席し、職員と意見交換する機会をつくっている。又、ホームへ訪問し職員個々の意見も積極的に聞いている。 課業評価にて自己計画、反省として各自が向上心を持って職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標や自己評価に目を通しし、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のための研修や対外的研修等への参加も進めて、ケアの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等参加し、交流を図り意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様の思いを十分聞き、グループホームの理念通り安心して頂けるよう努力をする。又、ご家族・担当ケアマネジャーの協力を得ながら、ご本人が安心して頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の入所相談よりご家族でホーム見学をして頂き、生活の場であることを理解した上で利用して頂く。ご家族より発言できる雰囲気作りをし、利用者様の権利を尊重し十分説明・同意を得ながら聞く機会を多く持ち信頼関係を構築している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族の意見も十分伺い、又、担当ケアマネジャーとも話し合い助言を受けながら真にグループホームでのサービス提供がふさわしいのか否か検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩としての関係を持つことを心掛けて接する。家族的な関係を少しでも築けるよう努力している。調理等、生活面でも利用者様と共に行い教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 正にご家族の一員、代理家族としてのケアとして面会時にはホームでの生活状況をお話し、状況を共有するようにしている。同じ目線で日常生活に寄り添うよう、お互いの関係を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の方の協力を得られるよう声掛けをしている。ご本人が希望される場所については、ドライブ等利用している。又、馴染みの方については面会あればご家族にも報告している。面会や一緒の外出・外泊など、ご家族やご友人との関わりが続けられるよう職員からも促している。 同法人の介護老人保健施設での交流会では、昔なじみの方と接することも多く、楽しみの一つとなっている。	
			(外部評価) 入居時には在宅時の環境や生活の様子を確認している。ドライブ時には馴染みの場所に立ち寄っている。家族や友人との関りを大切に、来訪や外出、外泊をすすめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様それぞれの個性を尊重しながらも9人が良い関わりができるように気配り、きっかけづくりなど配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も気軽に来所してもらっている。又、ケアマネジャーとも情報を共有し、相談・電話ができるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを行い把握している。コミュニケーションをとりながら、ご本人の思いを察知し精神安定に努めている。 又、時・場所等も考慮しながら全職員が利用者様一人ひとりの意向を把握するよう努力している。 (外部評価) 入居時に確認した事だけでなく、日常生活の中でふと口にした事や、利用者どうして過ごしている時に話していることなどを個別のフェイスシートに記載して職員間で共有し役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努めている。馴染みのある物など、ご家族に協力して頂き居心地のよい空間作りに努めている。全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。回想法的なケアも行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ある日突然に心身状況が変化することがある事を認識して、一人ひとりの現状把握を行っている。食後の休息等利用者様のペースに合わせ支援している。生活のリズムを守る為、一日の流れはやや決まっている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員が毎日の気付きシートを使用し、ケアプランに連動している。毎月のカンファレンスに於いて、ご本人・ご家族の意見も伺い、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に1回、又は必要に応じ評価し、計画を見直している。  (外部評価) 職員は担当の利用者に関して介護計画の素案をつくり、カンファレンスで気づきを話し合い、家族の意見も盛り込んでケアマネが作り上げている。具体的な介護計画の項目に番号をつけ、日誌に番号で評価を記入し介護計画に連携できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの変化や状況を個別記録に具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。 状態変化等あれば随時見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 小さな事でも遠慮なく意見してもらえ、雰囲気作りに努め、できるだけ多くのニーズに対応できるようにしている。新たなニーズへの対応方法は常に話し合いをしている。ご家族が訪問された場合にニーズ等を聞き、出来る事は即実施している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進委員会他、外部からの意見を積極的に取り入れ、適切な資源が活用出来るようにしている。 定期的に勉強会を行い、地域資源を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関だけでなく、入居前からのかかりつけ 医にも積極的に連絡を取り、受診できるよう支援して いる。 近所の歯科に於いては、往診も可能となっている。  (外部評価) 医療法人が母体なので、日常の健康管理は十分配慮さ れている。入居前からのかかりつけ医との関係は大切 にしており、医療機関同士で連携を図っている。受診 は家族の付き添いを基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を図り、日常の健康管理 をしている。又、広瀬クリニック・在宅支援診療所と の連携も図れている。 24時間医療連携も可能な支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医とも連携し、早期退院に向けて話 し合い、又退院後の療養計画・ホーム入居復帰につい てご家族とも相談し協力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。又、体調変 化があれば、その都度ご本人・ご家族と十分話し合い 説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステー ションとの連携を図り、看取りの経験もある。  (外部評価) 丁寧な指針をつくり、入居時に利用者や家族に説明し 意向を確認している。状況の変化に応じてその都度話 し合いをし、医療機関、訪問看護ステーションと連携 を図っている。過去、看取りを経験している。	家族の気持ちが変わるだけでなく、事業所の対応力 も常に変化していることを意識して、事例が出た時に 対応するだけでなく、職員間で率直な話し合いを繰り 返し、できること、できないことを把握しておくこと が望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行う。 勉強会で定期的に意識付けを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」としてマニュアルにて再確認している。スプリンクラーの設置も完了している。年2回隣接の介護老人保健施設と一緒に避難訓練を行っている。また、運営推進会議のテーマとし、一緒に行っている。 (外部評価) 運営推進会議の協力を得て一緒に避難訓練を行っている。年2回の昼夜想定避難訓練は、隣接した介護老人保健施設と合同で実施している。	利用者の状態は日々変化するので、災害時にどのような支援が必要か、地域にはどのような協力をしてほしいのか、その為には誰にお願いするかなど、具体的に顔の見える関係で連携していく努力が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご家族の意向に沿った呼び方など、利用者様一人ひとりに応じた配慮をしている。特に入浴中や排泄などは個々の希望に配慮している。 (外部評価) 個人情報に関する書類などの管理は、適切に行われている。声かけや入浴、排泄時の関わり方などについては、個々の状況や希望に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者様の思いを理解するよう心掛けて関わっている。表現や自己決定が上手くできない利用者様にも、表現やしぐさなどを見て思いが伝えられるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活動作の状況に応じて個別化を行い、利用者様の動きに合うように支援をしている。一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の着替えについては利用者様と共に確認をして好みに合わせている。又、月2回の理美容の便宜を図っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1回の食事会、外食は利用者様の要望に応え行っている。 盛り付け、後片付けなどを力に応じて行ってもらえるように支援している。	
			(外部評価) 準備や配膳、片づけなどできる事を職員と一緒に、おしゃべりしながら行っている。全員で旬の食材の話をするなどをしながら楽しい時間を過ごしている。献立については栄養士がカロリーや栄養バランスを考慮して立てている。月に一度は利用者自身が自分たちで、好きなメニューを決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1回の体重測定によりBMI値を出し、変化に注意し管理栄養士にも相談を確認している。水分量は毎食時確認している。バイタルチェック表にて個々の状況を把握している。水分摂取には十分注意を払い、職員からの声掛けも随時行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け・見守り・介助にて、口腔ケアを実施している。又、歯科衛生士による個別口腔ケア指導も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 個別の排泄パターンを把握して、こまめな声かけと誘導により、全員がトイレでの排泄がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜・食物繊維の多い食事、適度の運動（散歩等）を習慣づけている。又、朝一番の水分補給・夜間の水分補給の声掛けをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じた入浴を基本とし、入浴が楽しい時間となるようケアに努めている。入浴時間も利用者様の希望に沿った時間になっている。又、気分転換を図る為、介護老人保健施設ヒロセの湯浴施設で入浴希望される方もおられる。	
			(外部評価) 時間や順序は個々の希望に合わせている。仲のよい利用者同志で入ることもある。気分を変えて隣接している介護老人保健施設の露天風呂に入る方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様のこれまでの生活習慣はなるべく変えず、休息や安眠できるよう環境づくりにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容を把握するようにしている。状態の変化に気を付け、日頃と違う状況であれば医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝、体操の時間を設けている。「いつまでも元気でいたい」と意欲的に参加されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃より外出の希望は出来るだけ対応できるように、買い物などの日を設けている。自ら希望を言われない方は日常の会話から行きたい場所を聞き、行けるように援助している。	
			(外部評価) 事業所周辺は田畑が広がり、畑の作物の様子や、ユニークな案山子の立ち並ぶ田んぼを眺めながらゆったりと散歩ができる。スーパーや薬局へ出かけたり、ドライブで少し遠出をしたり外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は事務所に預けているが、使いたい時使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族より郵便物が届くとお礼の電話をするよう声掛けをし、電話にてお話をされる。人と人との繋がりを大切にしております。お孫さんの成長を楽しみながら、定期的には手紙を書かれている利用者様もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 畳コーナーや窓辺に座り、中庭の季節の草花を見ながら日光浴を楽しんでいる。 夜間ナースコールを遠慮される為、鈴等でも対応している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は十分な広さがあるため、テーブルがゆったりと配置されている。畳やソファのコーナーが設けられ、中庭の草花を眺め季節を感じることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースの中でも色々な場所、個々に気に入った場所で休めるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅の様子を確認するなどし、馴染みの物や家具の配置など落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 個々の思い出の品、リース、家具、仏壇、いす、鏡台などを持ち込み、利用者自身の居場所として心地よい様子が感じられる居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できる事、できない事の見極めをし、利用者様ごとにケアプランにあげ、場面作り・見守りのケアの中で洗濯物干し・たたみ、食事の準備等積極的にされ自信に繋がっている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号	(電話)0898-43-6662	
自己評価作成日	平成	22年	7月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 9 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で医療面・安全面での安心感がある。

○研修案内を積極的に行い、認知症ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

○寄り添うケアを心掛け、笑顔を多く引き出し、入居生活が居心地よいものになるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい生きがいがある心地よい今」という理念が実践され、利用者がいきいきと心豊かに過ごしている様子が感じ取れる。

母体が医療法人であるため、24時間の医療面でのバックアップがあり利用者や家族は安心できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセ

(ユニット名) つつじ

記入者(管理者)

氏名 羽藤 千春

評価完了日 22年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日朝礼時唱和をしている。 グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、穏やかで家庭的な雰囲気で暮らしているよう支援している。又、その人らしく生活出来るよう、日々のケアに繋げている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を根底に置き、認知症介護の基本を的確にとらえ、ホーム独自で「その人らしい生きがいのある心地よい今」という理念を掲げ、日々の生活の中で実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の国分寺・綱敷天満宮等に、初詣・地方祭(みこし来訪)等実施、自治会主催の「盆踊り」「文化祭」等に職員参加している。又、小学生下校時には「見守り隊」として利用者様と共に交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入して地域の行事などの情報を得ながら、文化祭や夏祭りなどに参加したり、近所の保育園の子どもたちと七夕祭りを楽しむなど交流をしている。また、通学路の見守り隊として地域貢献し、子どもたちと顔見知りになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営委員会等でホームの取り組み・行時等報告し理解されている。保育所との交流に於いては特に理解を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。行事報告・研修報告、又ご家族様等の意見苦情等報告し、意見交換を行い率直なアドバイスをもらい真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回定期的に開催し、行事、研修会、苦情やヒヤリハットの報告をしている。地域からは総代、地区代表、民生委員に参加を呼び掛けているが、多忙のため日程が合わない事もある。	地域内の様々な立場の方に参加を呼びかけ、今以上に多角的な意見交換ができるよう取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会でケアの実情を把握して、地域包括支援センターのケアマネジャーや担当職員と連携している。地域包括支援センターや居宅支援事業所ケアマネジャーに運営委員会に出席してもらい、日頃の取り組みを報告している。在宅支援の専門的立場から率直な意見をもらい、質の向上に努めている。	
			(外部評価) ケアマネジャーを窓口の実情や状況を伝え、課題解決の話し合いができる関係をつくっている。勉強会や研修会には常に参加しケアの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体で拘束をしないケアに努めており、Webを活用して情報の共有に努めている。身体拘束をしないケアの勉強会にも参加し、利用者様の身体状況・日常生活を十分観察し、安全を確保し拘束しないケアを実施している。	
			(外部評価) 拘束をしないケアは基本的なことである事を職員一人ひとりが認識している。どのような事が拘束に当たるのか共通認識を持つ事ができるように、日々の気づきを法人内のネットワークに掲載し、理事長や職員が毎日確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉による拘束も虐待の一部だと認識し、利用者様への言葉遣いにも注意している。又、定期的に勉強会をし虐待防止の意識向上を図り、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在財産管理・運営に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。又、居宅介護支援事業所と支援センターとの連携を確保し支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャーと十分な話し合いを持ち、助言を受けながら重要事項説明書にて説明し入居の検討をして頂いている。法人の基本指針にもあるように利用者様の権利を尊重し、利用者様の納得する介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時、又電話し日常の様子をお伝えし、意見・要望をお伺いしている。又、意見箱・アンケートを実施し職員全員に周知徹底しサービスの改善に努めている運営推進会議にご家族出席していただき率直な意見を聞かせて頂き改善に活かしている。  (外部評価) 家族の要望を聞き出す事を意識して、来訪時には積極的に声かけをし、良い事だけでなく実情を報告している。来訪が少ない方には電話や手紙で様子を知らせている。年1回の無記名のアンケートの実施など意見や要望を出してもらえよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、又グループホーム独自のミーティングに於いて活発な意見交換が行われている。又、法人の運営委員会にて提案し、代表者にも意見が届き反映されている。  (外部評価) ミーティング時には気軽に提案や要望を言える雰囲気をつくっている。職員は日頃から主任に気軽に相談でき、意見は主任から法人本部に伝えられ、提案した事はできる事から改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に参加し、職員と意見交換する機会をつくっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標や自己評価に目を通しし、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のためのセミナー等への参加も積極的に進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等参加し、交流を図り意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャー、ご家族との連携でスムーズな入居となるよう努めている。又、入居時利用者様との時間を十分にとり「安心」「信頼」される雰囲気作りをし、傾聴するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホーム見学时、又入居相談時・契約時等、話しやすい雰囲気作りをし困っていること、要望等聞く機会を多く持ち、信頼関係が出来るよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャーとも十分に話し合いを持ち検討している。又、ご本人やご家族とも十分に協議・相談して支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「人生の先輩」としての関係を持つことを心掛け接している。生活面でも自発的に行動できる場面作りをし、利用者様と共に行い、教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族面会時、電話にてホーム内での生活状況・希望されていること等その都度お伝えし、情報を共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の協力を得られるよう声掛けをしている。同法人の馴染みの方についてはドライブレク等利用し面会の機会をつくり、関係が途切れないようにしている。  (外部評価) 入居時には在宅時の環境や生活の様子を確認している。ドライブ時には馴染みの場所に立ち寄っている。家族や友人との関りを大切に、来訪や外出、外泊をすすめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外食・買い物・ドライブレク等にて利用者間の関わり合える場所作りを支援している。又、ユニット間、行事等を通じて交流会を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も気軽に来所してもらえるようにしている。担当のケアマネジャーとも情報を共有し、必要に応じて相談・支援ができるよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを行い把握している。ご本人及びご家族ともコミュニケーションをとりながらご本人の思いを察知し、精神安定に努めている。 又、全職員が利用者様一人ひとりの意向を把握するよう努力している。 (外部評価) 入居時に確認した事だけでなく、日常生活の中でふと口にした事や、利用者どうして過ごしている時に話していることなどを個別のフェイスシートに記載して職員間で共有し役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努めている。馴染みのある物など、ご家族に協力して頂き居心地のよい空間作りに努めている。全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの心身状態が変化することを認識し、現状把握を行っている。利用者様のその日の状況・ペースに合わせて支援している。一日の流れは、やや決まっいて生活のリズムは守られている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員、毎日の「気づき」を書くシートに記入している。ケアプランに連動できるよう工夫している。月1回カンファレンスを行い、ご家族の意向も伺い協力頂いている。	
			(外部評価) 職員は担当の利用者に関して介護計画の素案をつくり、カンファレンスで気づきを話し合い、家族の意見も盛り込んでケアマネが作り上げている。具体的な介護計画の項目に番号をつけ、日誌に番号で評価を記入し介護計画に連係できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの変化・状況・ケアの実践・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かした援助を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流をし、柔軟な援助を行っている。看護職員・歯科衛生士・PT・OT・ST・健康運動療法士・管理栄養士等のアドバイスを受けられる体制であり、よりいっそうの自立支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 隣接している介護老人保健施設との行事に参加させて頂き、他の利用者様との交流をしている。又、近隣の保育所の園児との交流で楽しく過ごして頂き交流を図っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関も整っている。訪問診療を受けられる利 用者様もおられる。又、緊急時の対応が確保されてい ることの安心感がある。又、希望されるかかりつけ医 とも連携を図っている。  (外部評価) 医療法人が母体なので、日常の健康管理は十分配慮さ れている。入居前からのかかりつけ医との関係は大切 にしており、医療機関同士で連携を図っている。受診 は家族の付き添いを基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を図り、日常の健康管理 をしている。又、広瀬クリニック・在宅支援診療所と の連携も図れている。 24時間医療連携も可能な支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医とも連携し、早朝退院に向けて話 し合い、又退院後の療養計画・ホーム入居復帰につい てご家族とも相談し協力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。又、体調変化があ れば、その都度ご本人・ご家族と十分話し合い説明しながら 方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステーションと の連携を図り、看取りの経験もある。 重度化の防止には、訪問診療・訪問看護の支援を受けてい る。  (外部評価) 丁寧な指針をつくり、入居時に利用者や家族に説明し 意向を確認している。状況の変化に応じてその都度話 し合いをし、医療機関、訪問看護ステーションと連携 を図っている。過去、看取りを経験している。	家族の気持ちが変わるだけでなく、事業所の対応力 も常に変化していることを意識して、事例が出た時に 対応するだけでなく、職員間で率直な話し合いを繰り 返し、できること、できないことを把握しておくこと が望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行っている。勉強会で定期的に意識付けを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」として、マニュアルにて再確認している。定期的に避難訓練を実施し、運営推進会議時に地域の方を交えて、協力依頼・意識付けを行っている。  (外部評価) 運営推進会議の協力を得て一緒に避難訓練を行っている。年2回の昼夜想定避難訓練は、隣接した介護老人保健施設と合同で実施している。	利用者の状態は日々変化するので、災害時にどのような支援が必要か、地域にはどのような協力をしてほしいのか、その為には誰にお願いするかなど、具体的に顔の見える関係で連携していく努力が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である事を認識し、言葉かけや対応に心掛け人格の尊重をし、個々のプライバシーには誠意をもって対応している。又、個人記録等保管する時は逆向きに保管し氏名が見えないようにしている。  (外部評価) 個人情報に関する書類などの管理は、適切に行われている。声かけや入浴、排泄時の関わり方などについては、個々の状況や希望に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の関わりの中で利用者様の思いを理解するよう心掛けている。生活リハビリ・レクリエーション等、自己決定にてお願いし、表情・しぐさも見のがさず支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活動作の状況に応じて、利用者様各々の動きに合うよう支援している。一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服選びは、利用者様と共に行い確認し好みに合わせている。月2回理美容の便宜を図っている。利用者様一人ひとりの要望に応え、満足されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1回の食事会や外食時、利用者様の希望に応え利用者様と準備し同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。  (外部評価) 準備や配膳、片づけなどできる事を職員と一緒に、おしゃべりしながら行っている。全員で旬の食材の話をするなどをしながら楽しい時間を過ごしている。献立については栄養士がカロリーや栄養バランスを考慮して立てている。月に一度は利用者自身が自分たちで、好きなメニューを決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1回体重測定によりBMI値を出し、変化に注意している。水分量・食事は毎食時確認し、個人バイタル表にて把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け・見守り・介助にて口腔ケアを実施している。又、歯科衛生士による個別ケア指導も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、利用者様が出来る限りトイレで気持ちよく排泄出来るよう、自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 個別の排泄パターンを把握して、こまめな声かけと誘導により、全員がトイレでの排泄がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分補給、適度の運動を習慣づけ、便秘気味の利用者様には体調に合わせて内服薬でコントロール・予防している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースに合わせた時間で個人入浴を行い、入浴中の楽しみを満喫されている。又、気分転換を兼ね介護老人保健施設ヒロセの大浴場で入浴される方もおられる。	
			(外部評価) 時間や順序は個々の希望に合わせている。仲のよい利用者同志で入ることもある。気分を変えて隣接している介護老人保健施設の露天風呂に入る方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の個々の時間を大切に、体調や状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。又、居室で自由に心地よく過ごされる時間も大切に見守っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容、処方された薬の説明書を全職員が目を通し把握するようにしている。又、状態の変化に気を付け、日頃と違う状況であればかかりつけ医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりに合った出来る事、自信に繋がることを見つけ出し、役割分担をしている。役立つ喜びをもち過ごされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調、天気の良い日はホーム周辺を散歩しながら地域の人々と談話したり、交流しながら季節の花を楽しまれたりしている。又、ご家族の協力のもと外出・外泊されたりする利用者様もおられる。日頃より外出の希望はできるだけ対応し、買い物などの日も設けている。 (外部評価) 事業所周辺は田畑が広がり、畑の作物の様子や、ユニークな案山子の立ち並ぶ田んぼを眺めながらゆったりと散歩ができる。スーパーや薬局へ出かけたり、ドライブで少し遠出をしたり外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は事務所で預かっているが、希望や能力に応じて、所持し、いつでも使えるようにしている。小遣い帳をつけ、家族と一緒に収支の把握ができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人希望時、電話できるよう支援を行っている。又、大切な人への手紙のやりとりが途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 畳コーナーや窓辺に椅子を並べ、中庭の季節の草花を觀賞されたり、生花を居室に飾られ楽しまれている。夜間ナースコールを遠慮されるような場合は、鈴等での対応をしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は十分な広さがあるため、テーブルがゆったりと配置されている。畳やソファのコーナーが設けられ、中庭の草花を眺め季節を感じることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間の一角にテレビ・ソファを設置し、自由に過ごせるようになっている。又、2階談話室は1・2階共用空間として工夫し使用して頂いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 仏壇、鏡等持参されている利用者様もおられる。お花等部屋に生けられ、又ご家族との写真を飾られ、ゆったりとした空間で居心地よく過ごされている。</p> <p>(外部評価) 個々の思い出の品、リース、家具、仏壇、いす、鏡台などを持ち込み、利用者自身の居場所として心地よい様子が感じられる居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様一人ひとり出来る事、出来ない事の見極めをし、ケアプランにあげ見守りのケアの中、生活リハビリ等積極的にされ自信に繋がっている。環境整備は整っている。</p>	